



オートバイ大国 日本の復活を!

宮 紀雄

インフォサイエンス
取締役社長

私はここ10年ほど趣味でオートバイに乗っています。

右手のアクセルに反応する力強い加速、体の動きにピタリと合ったスムーズな旋回。そこには自分とオートバイが一体となった爽快感があります。毎年暖かくなると、きれいな景色や料理を求めてオートバイで出掛けます。国内や欧米では気ままな長距離のツーリングをし、アフリカや中央アジアではオフロード・バイクでキャンプをしながらのツーリングなどに掛けます。去年はサーキットでのレースに4回参加して2回表彰台に立つことができ、私のオートバイ熱は一向に収まる気配がありません。

こんな私ですが、若い時はオートバイに乗っていませんでした。学生だった80年代は空前のオートバイ・ブーム。当時は規制強化により大型自動二輪免許を取ることが難しくなってしまう、憧れのオートバイを諦めていました。その後、時代も変わり平成8年の免許制度改正から教習所で大型自動二輪免許が取れるようになりました。

そして、オートバイに乗り始めてすぐに業界が疲弊していることに気付きました。80年代の華やかさは見る影もなく、オートバイの国内販売台数はおよそ6分の1に縮小していてメーカーをはじめ業界全体が苦境に立たされています。

しかしながら、うれしいことに海外へ行くと日本製のオートバイは絶大な人気があります。私が見るところ欧州は6割が日本車で、ハーレーのお膝元であるアメリカでも、特に西海岸では日本車が主流です。また、世界中のレースで日本車が上位を独占しており、多くの熱狂的なファンがいます。本田宗一郎氏をはじめとする日本人の情熱とこだわりが凝縮したオートバイ。日本ではすっかり販売が低迷していますが、海外に行くと日本がオートバイ大国だと気付かされます。

さらに、実用面でも抜群の機動性と経済性が見直され、最近では全国の自治体が事故や災害現場での活用に目を向け始めました。これからも趣味だけではなく産業や交通手段として、社会における活用の拡大に期待しています。

さて、オートバイには一番良い季節となりました。週末の天気ばかりが気になります。